

森づくり サポーターニュース

びわこ地球市民の森

Vol. 84

令和5年3月30日号

びわこ地球市民の森(森づくりセンター) 〒524-0102 滋賀県守山市水保町2727
TEL:077-585-6333 FAX:077-585-6312
biwako@moridukuri.info <https://www.moridukuri.info>

より豊かな生態系の森を目指して (4)

秋の森では落葉樹の葉が落ち、子供たちや動物が取り残し食べ残したドングリの上を、そして森全体の地表を覆いました。ただ落葉樹でもカシワやクヌギ(一部)は、葉を落とす離層の離脱効果が鈍いようで、春に新芽が成長するまで枯葉を枝に着けています。一方で常緑樹は、春に新芽が開くときに入れ替わって古い葉を落とします。

Vol.82でも少し触れましたが、落ち葉は微生物によって時間をかけて分解され、土壌に養分を供給します。土の上に降り積もった落ち葉は直射日光を防ぎ土を乾燥から守るため、土の中で暮らす土壌微生物にとって快適な環境を作り出します。落ち葉のおかげで、キノコやカビなどの菌類、ミミズなどの小さな土壌動物が暮らしやすい環境が作られます。土壌の生物多様性が高まるほど土壌の機能が高まり、落ち葉や枯れ木などの有機物が分解され、利用される循環が促進されていきます。



地表を覆った落ち葉、正面にクヌギも見える。



地表を覆った落ち葉と奥にシイタケの本伏せ

びわこ地球市民の森では、サポーターの皆さんの手で間伐した木をシイタケの原木やクラフト等の材料にします。また、ロビーにある薪ストーブの薪としても使用します。木くずも落ち葉と同じ効果があるので、残りの幹や枝はチップで破砕し木くずにして森に返しています。また、刈り取った芝カスや雑草は堆肥化してこれも森に返しています。この森から出るものは何も無駄にせず、外に持ち出さないことを原則にしています。

植樹を始めたころは森の中に入って歩いても地面が硬い感じで、土壌生物の調査をしても種類が少なく数値が低い状況でした。(数値が高いほど種類が多く、土壌の機能が高い。)今土壌生物調査をすれば大分数値が高くなっているのではないかと思います。

森の草や木々は少しずつ春への準備を整えています。冬芽の葉芽や花芽が少しずつ膨らんできました。草地ではオオバコやオオアレチノギクなどのロゼット(葉が放射状に地中から直接出ているもの)が中心から芽を出そうと春を待ち構えています。もうすぐにぎやかな春の幕開けです。



イヌシデの冬芽が大きくなりました。



オオバコのロゼット

令和4年度「森づくり活動団体」情報交換会 開催!

令和5年2月16日(木)に、森づくりサポーターとして登録し定期的に活動している21団体(ふくの会、さんまる会、森楽、みいの会フォレスト、32期園芸、レイカ33会、みろく会、レイカ36会、みなの会、レイカ37会、はやのの森探検隊、花の38会、ENG39A、LBK39、花の40、森の健康40、よいこの会、エゴノキ会41B、ENGA40、さんもくかい、42B)の代表者など22名が集まり、今年度で第9回目となる情報交換会が開催されました。

会議では、まず出席者の自己紹介があり、指定管理者からあいさつと公園運営の話、そして「森のつどい2023」への協力がありました。さらにサポーター代表の選出の後、提案や意見・情報交換等を行いました。

以下、詳細について紹介します。

指定管理者「(株)みらいもりやま21」から、公園運営と出会いのゾーンの大型遊具やカフェの設置、親水施設の設置・運営の話がありました。「びわこ地球市民の森のつどい2023」の開催日が、10月29日(日)に決まり、協力をお願いしました。森づくりサポーター代表の交代による新代表の選出をお願いしたところ、立候補により「LBK39」の小西慎一氏が選ばれました。

意見や提案としては

- 各ゾーン(出会い・里の森・ふれあい・つどい・ふるさと)ごとの特色を出してはどうか。
 - 団体相互の交流ができないか。「森のつどい」で、活動団体を合わせたブースをつくり、子どもたちを募って森でゲームなどをしてはどうか。
 - 情報発信をもっとしてほしい。SNS、ホームページなど。
 - 森で遊んだり学んだりする催しを企画した時に、サポーターの皆さんに森の案内や企画のサポートなどもしてほしい。(事務局)
 - 「森のつどい」について
 - ・開始から終了までの主な情報や体験コーナー出店場所、来園者・出店者の流れなどを事前に教えてほしい。
 - ・範囲を広げてもっとブースを増やしてはどうか。
 - ・人が多すぎたのでは。マルシェに集中しすぎた。改善が必要ではないか。
- などの意見がありました。



情報交換会の様子



「早春の森づくりサポーター活動」開催!

早春の光が差し穏やかな天候のもと、今年度最後の「森づくりサポーター活動」が令和5年3月4日(土)に開催されました。

当日は森づくりサポーター124名、ガールスカウト18名、計142名の多くの皆さんが参加し、森づくりセンター平塚副所長のあいさつと作業内容説明のあと、森の中の活動が始まりました。

森づくりサポーターの皆さんは、ふれあいゾーンで園路をはさみ、常緑樹と落葉樹が生育する森の中の間伐作業を行いました。

間伐は残った木の生長をうながし、森全体を健全にするために欠かせない作業です。現地は平成15年から17年に植栽され20年程に生長した森で、少し太い木もありノコギリで切り倒し、そのあと枝払いや玉切り、木の整理など大変な作業でした。皆さん熱心に取り組んでいただき、明るくなった森は爽やかな風を受け一段と元気さを取り戻しました。



開会式の様子



常緑樹林地での間伐作業



落葉樹林地での間伐作業



枝払い、玉切り作業

一方ガールスカウトの皆さんは、江見先生の指導のもと「森で春を見つけよう」をテーマにした自然教室で、地面に張りついて春を待つロゼット状の植物や寒い冬を過ぎてきた冬芽の様子、センダンやオニグルミの葉が落ちたあと枝に残る動物の顔に似た葉痕(ようこん)など、様々な植物を見て自然観察ノートに記録し春の訪れを感じました。

そのあと、森で間伐したクヌギやコナラの原木にシイケケ菌を打ち込む体験をしました。



ロゼット状の植物観察



オニグルミの葉痕観察



シイタケの菌打ち

活動後は、全員お弁当とお茶で疲れを癒しました。

参加していただきました皆さん、ありがとうございました。平成5年度も、さらに充実したサポーター活動を計画していきますので、どうか皆さんのご協力をお願いします。

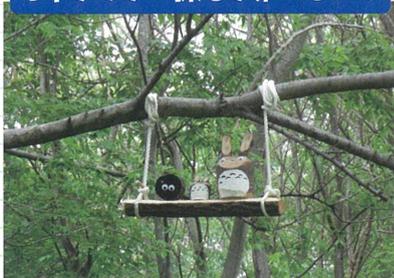
森で体験できる

いろいろなものを紹介します！

森づくり トピックス

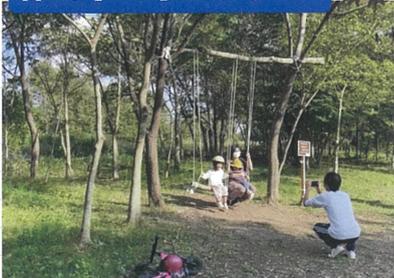
大いに利用して楽しんでくださいね！

キャラクター探しウォーキング



マップを見ながら、森にいるキャラクターを探そう！

森の中の木のブランコ



2～3人乗りブランコ、森の中でいよされます！

木のジャングルジム



森づくりセンター内にあります

レンタサイクルで森を走ろう



森の中をサイクリング～



タンデム自転車は大人気！

このほかにも、モルック(森では「モリック」といいます。)やハンモック、またボールやホッピングなどいろいろな遊具を無料で貸出しています。



●びわこ地球市民の森のつどい2023について

令和5年度は森のつどいを秋に開催し、併せてサポーター活動を実施します。本格的な秋を迎え絶好の季節です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

お知らせ

●令和5年度森づくりサポーター活動の計画

<令和5年度から育樹活動と自然教室の開催日が異なりますので注意してください。>

- ・令和5年 5月30日(火) 育樹活動
- ・令和5年 7月20日(木) 育樹活動
- ・令和5年 10月29日(日) びわこ地球市民の森のつどい2023
- ・令和6年 2月29日(木) 育樹活動
- ・5月13日(土) 自然教室
- ・7月22日(土) 自然教室
- ・3月2日(土) 自然教室

森のデータ

森の面積	42.5ha
森の延長	3.2km
森の幅	100～200m
植樹面積	80,808㎡
植樹期間	H13～H25
植樹活動参加者数	45,994人
植樹本数	160,967本
森への利用者数(R3)	241,551人
森づくり活動参加者数(R3)	3,418人
うち育樹活動参加者数(R3)	2,549人

編集 後記

新しい体制になり、1年が経過しました。森では利用していただく皆さんに様々な体験を通して楽しんでもらえるよういろいろな趣向を凝らしたイベントを計画しています。またサポーターニュースもデザインなどをリニューアルし、常にホットな情報を提供できるよう努めています。これからも、さらに充実したニュースを届けていきたいと考えていますので、皆様のご意見、ご提案をお待ちしています。